

# 羅針盤



進路だより No. 9 平成 28 年 12 月 1 日

◇家庭とクラスをつなぐこの進路だよりは必ず保護者の方にも見てください。

## ◆府内公立高校の志望調査結果より

今回、3年生やその保護者の方に進路選択の際の資料としてもらうため、11月現在の京都府下全域の進路希望調査集計結果が2日の新聞に掲載されます。それに先立ち今日、3年生の皆さんには詳細な『平成29年3月中学校及び特別支援学校中学部卒業予定者の進路希望状況』を配付しました。

さて、この発表を見てどう思いますか？ 京都市・乙訓通学圏の公立高校の受検を希望する生徒8、308人の内、実に9割近い7、432人の生徒が「前期選抜」の受検を希望しています。普通科の中には倍率が5倍から6倍を超える高校もありました（山城・鴨沂・洛北・鳥羽・桂・日吉ヶ丘・向陽）。

さて、みなさんはこの発表を見て、12月の個人懇談に備え、考えをまとめておく必要があります。

今回発表されたのは、前期選抜の倍率であり、第一希望のみを集計したものです。大まかな動向はつかめますが、細かく分析するためには、少し情報が足りません。

したがって、この数字だけを見て一喜一憂したり、倍率に左右されてしまうことは、あまり感心しません。次の点を配慮しながら、12月個人懇談に向けて、自分の気持ちを固めていきましょう。

### ① 前期選抜は高倍率

普通科において、前期選抜では定員の30%しか募集しません。したがって、その高校の定員ギリギリの希望者であっても、3倍以上の競争倍率となります。

### ② 中期選抜は第1順位が命

中期選抜では残りの定員の90%をそのB校を第1順位で希望した者の中から選ぶ（ステップ1）、残りの10%を他のA校を第1希望で不合格となり第2順位でB校を希望した者と併せて判定（ステップ2）します。このとき、ステップ1の合格最低点より、ステップ2の方が高い得点を要求される場合があります。この逆転現象は、希望者が多いほど小さく、定員ギリギリの学校ほど大きくなります。

すなわち、「第2順位は、希望者の少ない〇〇校にしとこ…」という考えは、あまり意味がない事に注意しましょう。

また、専門学科を第2順位としている人も注意が必要です。例えば、京都工学院高校を第2順位とした場合、前期で定員の70%を募集するので、中期選抜は残り30%となり、第2順位で募集する人数は定員の3%です。いかに、狭き門か？ 中期選抜において、「普通科がダメなら、職業系の専門学科でも第2順位にしとこか…」という考えも、まったく意味が無い事に注意しましょう。

中期選抜は、「第1順位で合格」が基本です。

## 「京都府高校生等修学支援事業29年度貸与（貸付）予約申請」について

上記の予約申請の最終締切日は、平成28年12月20日（火）ですが、申請書を府庁へ提出してから申請受理・手続き完了までおよそ1ヶ月余りかかることがあります。また申請には厳正な審査があるため、×切間近になって駆け込みで書類を提出しても「書類不備」等で再度申請しなければならない場合もあります。早めに申請手続きをされることをお勧めします。